

『やまなしグリーン・ゾーン』への取り組み

～【第一号】として山梨県から認証～



常磐ホテル 代表取締役社長（湯村温泉協同組合 理事長） 笹本 健次 氏

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2月以降は観光客が減少した上に、インバウンドの停止や緊急事態宣言発令によりホテルを休館しなければならなくなりました。そのため前年同月比の売上で最大▲90%となり大きな痛手となりました。

緊急事態宣言の解除後の営業再開に向けて、「With コロナ」をキーワードに、お客様、従業員、地域の安全確保のため、ガイドラインを策定すると共に今後の対策について検討を進めてきました。

山梨県では、来客施設の安全性について評価し認証する『やまなしグリーン・ゾーン』制度が定められたことから、当館でも感染症予防対策に取り組み、他の宿泊7施設とともに「第一号」として7月17日付けで山梨県から認証されました。



同様の制度は、東京では申請書を送付すれば認定書が送信されという

簡単なものですが、山梨県では申請後に調査員による施設や手順などの厳しい実地審査に合格しないと認証となりません。当館では、入口の非接触型体温計、脚踏式アルコールディスペンサースタンドの配置、来館時のフロント対応での健康チェックシートへの記入依頼、対面着席用に耐火性のアクリル板設置など数多くの感染予防対策を取ることとしました。

8月以降は、組合員だけでなく県内の同業者も数多く来館、認証についての施設状況の見学や取り組みについて情報提供をしています。

認証後は金額の高い部屋から予約が入ることからも、新型コロナウイルスの感染拡大で、お客様の意識は料金よりも安心・安全にシフトしていることが感じられます。

県内の宿泊業全体でグリーン・ゾーン制度に取り組むことで、山梨の宿泊施設の安全性の認知度が高まり、県全体の信頼に繋がり、観光客のリピーターが増える取り組みになるのではないかと期待しています。